



学校教育目標 進んで学ぶ子 仲良くできる子 たくましい子
児童数 男子490名 女子476名 計966名

㊦っかりと聞き・㊦くわく未来を語り・㊦すんで学び・㊦れにも仲良くできる しわすだっ子



70周年記念マスコット
「ななまる」

うんがいそうてん

雲外蒼天

～ 乗り越える力をつける ～

校長 石井 宏明

標題は、出張で訪れた県立ふじみ野高等学校の玄関で目にした言葉です。素敵な言葉だと思い、メモしてまいりました。

「雲外蒼天(うんがいそうてん)」とは、困難や試練を乗り越えていけば、素晴らしい未来が待っている、という励ましの言葉のようです。

確かに、地上で生活している私たちからは厚ぼったい雲の存在しか見えないのに、雲の上には青空が広がっています。曇りが空一面に広がっていると、いつ雨が降るのかもわかりませんし、それこそ天上の様子など、計り知ることもできません。

それでも、雲の上は、いつも青く澄み渡る空が延々と広がっているのです。

約2年にも及ぶ感染症対策下での教育活動で、雲に覆われたように、この先のことが見えにくい社会ではありますが、しわすだっ子の未来を明確に描くことで、目の前の雲も冷静に見ることができます。その上で、自ら雲の上を目指し、努力する子供たちにしたいと考えております。

また、子供たちにとっての「雲」は感染症だけではありません。

学習や運動、人間関係等、子供たちにとっての困難や試練は、いろいろな場面で訪れます。

それを一つ一つ乗り越えていくためには、単に学力や運動能力、コミュニケーション能力を高めればよいというわけではなく、「忍耐力(我慢する力)」や「(粘り強く)頑張る力」といった非認知的能力を皆様と一緒に、しっかりと身に付けさせることが重要だと考えております。

そこで大切にしたいのが、子供たちに「試行錯誤」させること、失敗を経験させることです。

振り返りますと、私たち大人が、子供たちが傷つかないようにと、必要以上にサポートしすぎ、子供たちの貴重な失敗経験を奪ってしまっているのではなかったか、と自省しております。

授業をはじめ、様々な行事への取り組みにおいて、丁寧すぎる指導・支援が、子供たちの「自発性」を引き出したり、「試行錯誤」したりする経験を少なくしているようにも思えます。

その結果、小さな失敗や困難に対する免疫(抗体)がなく、心に大きな痛手を負ってしまったり、失敗することを恐れて、新しいことやすぐには達成できないことなどに躊躇(時には敬遠)してしまったりする子が多くなってしまっていないか、と憂いております。

人間誰でも失敗はしたくないものです。ですが、失敗や挫折のない人生なんてありません。時には、失敗が連続することもあります。本当に青空があるのか、と不安になることもあります。

ですから、子供たちには、成功体験を積みせると同時に、失敗は誰にでもあること、そこから学ばばよいこと等、失敗することの意味や価値を、どう学ばせるのかが重要だと考えています。

子供たちが努力して乗り越えられる課題を意図的に設定し、時には失敗を経験させ、その失敗に真正面から向き合わせ、それでもあきらめずに粘り強さを発揮できるよう、サポートすることこそが私たちの務めだと考えております。その意味でも、第2学期に2年ぶりとなる学校行事を数多く実施できたことは、非常に意義のあることだったと考えております。

本日お渡しするお子様の通知票(あゆみ)にも、青空もあれば、雲がかかっている部分もあるかも知れません。しかし、その雲の先には、必ずや蒼天が広がっております。

是非とも、「(粘り強く)頑張る意欲や態度」を養うべく、励ましていただければ幸いです。新たな変異株にもご留意いただき、よいお年をお迎えください。

1月11日には、大好きな子供たちの笑顔に会えることを楽しみにしております。